

平成 20 年度日本高校生代表団第 2 陣が訪中

北京・武漢・上海で心に残る交流

当財団は外務省の委託を受け、「日中青少年友好交流年」事業の一環として、2008 年 10 月 7 日から 13 日まで、日本高校生代表団第 2 陣(千ヶ崎良治団長、一行 96 名)を派遣した。中日友好協会が受け入れを担当した。

代表団には宮城県と茨城県の高校生が参加して、北京、武漢、上海の 3 都市を訪問し、故宮や黄鶴楼など歴史遺跡を参観したり、ホームステイや学校交流を行った。高校生達は交流を通じて現地の高校生達と親睦を深め、また万里の長城や揚子江を体感することによって、広大な中国への理解を深めた。

10 月 8 日、北京の人民大会堂にて歓迎会に参加、井頓泉中日友好協会副会長から歓迎の言葉が贈られた。高校生達は人民大会堂という場所に緊張した面持ちを見せつつも、日本の代表として訪中しているという意識を高めた。

また 10 月 9 日は、北京市第十九中学を訪問し、中国の学生と共に英語の授業に参加したり、書画や声楽、器楽といった部活動を体験した。高校生達は中国の学生の高い英語のレベルや積極性に大いに刺激を受けた様子だった。



武漢の高校で授業体験

10 月 10 日、武漢では、湖北省実験中学、華中科学技術大学付属中学、武漢市洪山中学の 3 校に分かれて学校交流を行い、授業参加後は、2 泊 3 日で各校の生徒宅にホームステイした。ホームステイ 2 日目の夜、高校生達はホストファミリーと共に再集合し、日中高校生合同交歓会に参加した。双方の高校生がそれぞれ歌や踊りの出し物を披露し、日本の高校生は合唱、トーンチャイム演奏、ソーラン節やエールの交換を行って大いに会場を沸かせた。最後は日中双方の学生全員が揃って舞台上上がり“幸せなら手をたたこう”の大合唱で幕を閉めた。



日中の高校生と一緒に合唱

10 月 12 日、高校生達はホストファミリーと涙のお別れをし、武漢から上海に移動した。上海での歓送会には、上海総領事館の石井哲也首席領事も出席し、青年交流の重要性について語りかけた。高校生達も自発的に今回の訪中で学んだことや感じたことを発表し合い、口々に「日本と中国の違いが発見できた」「中国に対するイメージが良くなった」「これからもっと積極的に勉強していきたい」という言葉が聞かれ、この一週間で中国から、またこの事業から大いに刺激を受けたことが窺えた。

6 泊 7 日という短い期間ではあったが、参加した高校生が今回の青少年交流で得た経験や知識は、必ず今後の日中友好に繋がるものと確信し、関係者の皆様にお礼申し上げる次第である。

(総合交流部)

平成20 年度日本高校生代表団第2陣 日本高校生の感想

- 万里の長城は、テレビでしか見たことがなかった、初めて足を踏み入れた時はとても感動しました。また当時の皇帝の権力のすごさに驚き、その景色の雄大さと美しさには驚きました。
(茨城県 2 年女子)
- 中日友好協会主催歓迎宴会はとても盛大で感激しました。宴会が行われた人民大会堂は一般の人が入れないような特別なところと聞いてとても光栄でした。
(茨城県 2 年女子)
- 学校交流で出会った生徒たちの多くは「日本に行ってみよう」と言っていました。私は日本を誇りに感じました。
(茨城県 2 年女子)
- 訪問した学校では、皆机の中に入りきれないほどの教科書が詰め込んでありました。とても日本では考えられない事です。同じ高校生なのに中国の人たちはとても努力家です。
(茨城県 1 年男子)
- ホームステイと聞いた時はとても緊張しましたが、実際にホームステイ先に行ってみるとホストファミリーはとても優しく僕を迎えてくれ、緊張はすぐに解れました。中国は一人っ子政策で兄弟がいないため、僕が兄弟の話をするとても羨ましがりました。
(茨城県 1 年男子)
- 一番印象に残っていることは、ホストシスターと2人で中島美嘉の「雪の華」を歌ったことです。その時、私は改めて音楽ってすごいと思いました。言葉が通じなくても音楽って世界共通だと気づきました。
(茨城県 2 年女子)
- 貧富の差を感じました。とてもきれいな大きなマンションが建っていると思えば、その横には屋根も壊れかけているような家が広がっていたり、道端に人が座っていたりと、本当にこれが同じ町なのかと思うほどでした。
(茨城県 1 年女子)
- 私が唯一不快感を覚えたのがゴミでした。大きな通りなどはとても綺麗だったのですが、学校前のロータリーやその側にある商店街のような通りなど、捨てる場所は決まっているのですが、まとめてもないゴミが山積みになっていました。
(茨城県 3 年女子)
- 中国に行く前は、日本人だとわかると冷たい態度をとられたりするのだろうか、などと考えていたのですが、むしろ積極的に話しかけてくれたり、興味をもってくれる方が多く嬉しかったです。
(茨城県 3 年女子)
- 私にとってこの一週間は発見と驚きの連続でした。この経験を自分の周りの人に伝え、自分だけの思い出にせず、この経験が無駄にならないように、これから生活をしていきたいと思います。貴重な経験をした一週間は私の一生の宝ものです。
(茨城県 2 年女子)
- 中国の授業では考えてもらうように何人の人にも当てていて、参加型授業で受けていたところが本当に面白かったです。また学校の先生がユニークな方が多く、中国の学校に通ってみたい、と感じました。
(宮城県 2 年女子)
- 学校見学では、カンフーを一緒にやったり、体育の授業に参加させてもらい、バスケットボールをみんなまでやったり、すごく楽しかったです。
(宮城県 3 年女子)

- ホストシスターと私は二人ともあまり英語が得意な方ではなかったので、お互いの気持ちを理解するのに苦労しましたが、彼女は一生懸命に中日会話や携帯電話の英単語辞典をつかって自己紹介してくれました。その後、家に帰ってパソコンの翻訳機能や「心連心」のサイトを利用して会話をしました。
(宮城県2年女子)
- 対面したホストファミリーはとても明るくて、お母さんは私に会った瞬間に抱きしめてくれました。家に向かう途中でも「あなたに会うことをずっと楽しみにしていた。」と私の頭をなでながら優しく話してくれました。それまで少しでも余計な不安を抱いていた自分が恥ずかしくなり、温かすぎる言葉に涙が出そうでした。
(宮城県3年女子)
- 日中高校生合同交歓会で踊ったソーラン節は、大成功を収めることができ、そして多くの方々からお褒めの言葉を頂くことができ、達成感でいっぱいになり、とても感動しました。(宮城県2年女子)
- 強く感じさせられたことがありました。それは圧倒的な中国の同年代の子供の能力の高さです。色々な場面で彼らのエネルギーの強さを感じました。それは日本の子供のように誰かに頼るのではなく、自分から進んで物事をこなしていく積極性があることです。
(宮城県1年男子)
- 渡中前、僕はホストファミリーに向かって「あなた方は日本人を恨んでいないか？」と尋ねようと思っていた。だがその必要はまったくなかった。彼らの反応を見て、彼らが恨みを持っていると誰が思えただろうか？
(宮城県2年男子)
- 日本を見直す良い機会にもなりました。改めて日常の生活に西洋料理と中国料理をアレンジしながらも普通にとりこんで何の不自然さも感じない日本の「食の豊かさ」を実感しました。
(宮城県2年女子)
- 昨今、中国についてのマイナスな報道が様々なメディアから日本国民にもたらされています。私はそれだけが中国ではないと、声を大にして言いたいです。
(宮城県2年女子)
- 中国に行く前、中国人は気が強いと聞いていたけれど、中国人は気が強いのではなく、自分の意見をしっかり持っているのだということにも気づきました。
(宮城県2年女子)
- 生徒の皆はこの交流を通して、日本と中国の政治的な付き合いと、日本と中国の人々の触れ合いは全く違うことが良く分かったであろう。たとえ国家間の関係が悪化しようとも、人々の関係はそう簡単には変わらない。だから、人と人との永い付き合いを大切にしていきたいと、僕は強く思う。
(宮城県2年男子)

日本高校生代表団第2陣 日程表

参加県:宮城県・茨城県

訪中団:生徒(男 21 名 女 69 名 計 90 名) 引率等(11 名)

日付			プログラムの内容
10月7日	火	午後	北京着
10月8日	水	午前	万里の長城参観
		午後	天安門広場散策 中日友好協会主催歓迎宴会 (人民大会堂にて)
10月9日	木	午前	故宮博物院参観
		午後	学校交流 (北京市第十九中学)
10月10日	金	午前	武漢に移動
		午後	学校交流(湖北省武昌実験中学、華中科学技術大学付属中学、 武漢市洪山高級中学) 学校交流終了後、各家庭にてホームステイ
10月11日	土	午前	各家庭にてホームステイ
		午後	日中高校生合同交歓会
10月12日	日	午前	ホームステイ終了
		午後	上海に移動 中日友好協会主催歓送会
10月13日	月	午前	帰国